

## 長期自然体験事業

# チャレンジ&チェンジ！真夏のアドベンチャー2016 ～海拔0m～3,000mへの挑戦～

### 1 ねらい

富山県の雄大な自然にふれながら、海拔0m～3,000mまでを自力で踏破することにより達成感を味わわせるとともにチャレンジ精神を育み、またグループ活動を通して、主体性、自律性、協調性を養うとともに、豊かで自立し人格形成の基礎を培う。

### 2 期日

キャンプ : 平成28年8月8日(月)～16日(火) 8泊9日  
 (ボランティア研修 : 平成28年7月15日(金)～18日(日) 3泊4日)  
 (事前説明会 : 平成28年7月18日(月・祝) 日帰り)

### 3 対象

小学5年生～中学3年生

### 4 参加人数／募集人数／応募者数

18名／18名／82名

### 5 講師・スタッフ

国立立山青少年自然の家職員 7名  
 法人ボランティア 10名  
 国立登山研修所職員 1名  
 立山ガイド協会登山ガイド 1名

### 6 ボランティア研修

国立立山青少年自然の家職員 7名  
 法人ボランティア 10名  
 立山ガイド協会登山ガイド 1名



	午前	午後	夜
7月15日(金) 1日目		○入所	○オリエンテーション ○日程確認
7月16日(土) 2日目	○黒部市ふれあい交流館見学 ○自転車行程下見	○自転車行程下見 ○国立登山研修所見学	○登山準備
7月17日(日) 3日目	○立山登山	○ふりかえり	○ボランティア企画活動準備
7月18日(月・祝) 4日目	○事前説明会準備 ○事前説明会	○事前説明会 ○解散	

### 7 共催・協賛・後援・協力

共催：独立行政法人 日本スポーツ振興センター 国立登山研修所

協賛：富山トヨタ自動車株式会社、大塚製菓金沢支店富山営業所、ベネフレックス富山営業所、味の素株式会社、株式会社池田模範堂、横山冷菓、アサヒ飲料株式会社、日の出屋製菓産業立山本社

後援：富山・石川・新潟各県教育委員会、立山町教育委員会

北日本新聞社、Net 3、ケーブルテレビ富山

協力：富山県立山博物館、立山カルデラ砂防博物館、学校法人上智学院  
 黒部市ふれあい交流館、立山室堂山荘、立山町新瀬戸公民館

### 8 日程

	午前	午後	夜
8月8日(月) 1日目		受付14:00～ 出合いの集い 班タイム	班タイム パッキング ※自然の家(本館)泊
8月9日(火) 2日目	周辺施設の見学 (立山博物館 まんだら遊苑)	石田浜へ移動(海拔0mへ) 歩行行程 黒部市ふれあい交流館へ	班タイム ※黒部市ふれあい交流館泊
8月10日(水) 3日目	仲間作り活動	自転車合わせ・自転車練習	班タイム ※黒部市ふれあい交流館泊
8月11日(木・祝) 4日目	自転車行程 黒部市～魚津市～滑川市～上市町 ～立山町～富山市～立山町～国立登山研修所		班タイム ※登山研修所泊

8月12日(金) 5日目	カルデラ砂防博物館見学	ロッククライ ミング体験	パッキング (登山準備)	班タイム ※登山研修所泊
8月13日(土) 6日目	登山行程① 千寿ヶ原～美女平～弘法～弥陀ヶ原			星空観察、班タイム ※六甲学院立山ヒュッテ泊
8月14日(日) 7日目	登山行程② 弥陀ヶ原～天狗平～室堂ターミナル～室堂山荘			班タイム ※室堂山荘泊
8月15日(月) 8日目	登山行程③ 室堂山荘～一ノ越～室堂山荘～室堂ターミナル			ファイナルパーティ ※自然の家(本館)泊
8月16日(火) 9日目	活動のまとめ・発表会	別れの集い	解散 14:00	

## 9 参加者からの感想

### ●新しい自分

私は今回のチャレンジ&チェンジに参加して、前の自分と生まれ変わったことがあります。一つ目は、心と体が強くなったことです。中学生になる前に心と体を強くしたいと思っていました。活動が辛くても、諦めずにやっていると、心と体が強くなっていました。二つ目は知らない人と進んで話をし、友達になれたことです。困っている人がいると、声をかけて、話をしました。気付いたら友達になりました。知らない人でも進んで声をかけることができるように生まれ変わることができました。今回のチャレンジ&チェンジで「諦めないこと」と「いいと思ったことは行動に移す」という大切なことを学びました。この学んだことを、これからの生活の中で生かしていきたいと思います。



### ●素直で明るい自分

私が今回のチャレンジ&チェンジで変わったことは二つあります。一つ目は素直になることです。私は学校で素直になれていません。でも、チャレンジ&チェンジに参加することで少し素直になれました。ボランティアや職員の人たちが、自分らしさをもっているからです。自分らしさをもつということは、素直な自分です。職員やボランティアの人たちのように素直になりたいと思い、活動を通して、自然と素直になれたと思います。二つ目は明るくなるということです。私はどちらかというと、明るく楽しくないほうなので、友達も少ないです。職員やボランティアみたいに誰とでも明るく、楽しくいられたらいいなと思っています。チャレンジ&チェンジのような企画がないと、私は気軽に話すことができません。みんなが話しかけてくれたので、少し変わったと思います。将来はボランティアや職員になりたいと思っているので、これからも素直で明るい自分に近づきたいです。

## 10 成果

- 事業日程をお盆にかかるように設定したことにより、大学生ボランティアのテスト日程と重なることなく、学年比・男女比とも、バランスよくボランティアを確保することができた。
- 事業の事前説明会の中身を、参加者目線に合わせて、必要な物品や保護者が求めている情報などを的確に提供することができた。特に、持ち物については、現物を見てもらうことで、登山用品の必要性やパッキングのやり方などを理解していただけた。
- テント泊をやめ、黒部市のふれあい交流館泊を実施したことにより、事業の準備・運営面での負荷を大きく軽減することができた。

## 11 今後の課題

- 事業9年目を迎え、プログラムについては多少の変更はあるものの、マンネリ化が見受けられる。安全管理の面や参加者の達成感など、多角的に検討しプログラムの大幅変更も視野に入れて考えていく必要がある。また、国立施設として、他の公立施設のモデルとなる事業展開や、子供たちが参加してみたいと思えるような魅力あるプログラムを検討し、発信していく必要がある。
- 今年度は天候の悪化により、立山登山を諦め、一ノ越までの挑戦となった。登山研修所の専門職、ガイド、スタッフ間で協議をすることによって、登山行程においては的確な状況判断ができた。しかし登山行程同様に危険度が高い、自転車行程においては、有識者の同行等がないため、安全管理上留意すべき点が多く存在する。職員の配置やボランティアの事前研修、グループ分けなど、様々な点で危険を排除していく必要がある。今後も自転車行程を継続していくために、ルートの検討など、安全に活動できるよう、協議を重ねていきたい。